

山西省での生活

吉田 想陶

山西省に到着し早くも1カ月が経ちました。今回のレポートはこの1カ月で感じたことや印象深かったことを報告したいと思います。

私は日本での大学在学中に全く中国語に触れてこなかったため、大学卒業後、山西留学までの時間を利用し約2カ月間上海で中国語の勉強に励みました。全くゼロからのスタートだったので苦労もありましたが、そのおかげで授業にスムーズに入ることができ生活にもすぐ馴染むことができました。しかし実際に現地の人々と話してみると自分の伝えたいことを伝えることに精一杯で、返ってくる言葉がなかなか聞き取れずコミュニケーションを取ることの難しさを痛感しております。

9月の初め頃に山西大学の日本語学科の学生と交流する機会に恵まれ、お互い辞書を片手に交流を深めました。こちらの学生はとても勉強熱心で、積極的に日本語で話しかけてきてくれます。学生の使う日本語のレベルの高さに驚き、私ももっと中国語で話したいという気持ちが高まりました。私が上手く中国語の発音が出来ずに悩んでいることを伝えると、何人かの学生が時間の合うときに中国語の勉強を見てくれることになりました。まだまだうまく話すことができない私にとって、とてもありがたいことであり、これが私の最も嬉しかった出来事です。せっかく中国にいたので授業以外の時間においても中国語を使う環境に身を置き、早くたくさんの人々とコミュニケーションが取れるよう会話力の向上に努めたいと思います。

9月の半ば頃、日中間での钓鱼島（尖閣諸島）をめぐる問題で、実際に学外では「钓鱼岛是中国的（尖閣諸島は中国の物だ）」という張り紙やステッカーを目にしました。しかし私自身は人と接する上で反日感情を覚えることは特になく、日常生活に問題はありませんでした。今の私に理解できることはそう多くはないと思いますが、多様な価値観を実感として知覚することが大切であり、緊張感の高まりつつある日中関係をリアルタイムで体感できるということは非常に貴重な体験であると感じています。今後も日本には感じることでできない様々なことに触れ、自身の見聞を広めたいと思います。



山西大学正門からの景色
(日本での建国記念日にあたる国庆节のお祝いの様子)



学内の様子 (季節も変わり秋を感じます)